

## 令和3年度第2回 岡山県障害者施策推進審議会・岡山県自立支援協議会・議事録（要旨）

- 1 日 時 令和4年2月14日（月）  
13:30～15:30
- 2 場 所 Zoom（オンライン）
- 3 出席委員 村社会長、石原委員、伊山委員、小川委員、嘉数委員、片岡委員、河井委員、田中委員、徳弘委員、中島委員、難場委員、福田委員、藤井委員、藤田委員、本田委員、薬師寺委員 以上16名（※1名欠席）
- 4 議事概要（主な質疑応答）
  - 議題（1）岡山県障害者計画、岡山県障害福祉計画・岡山県障害児福祉計画の取組実績について
    - （委員）

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目が多いが、令和2年度実績が「0」のものや、目標未達成の項目について、今後の予定はいかがか。
    - （事務局）

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により研修等を実施できていないが、今年度はオンラインでの開催などに取り組んでいる。目標未達成等の項目について、引き続き必要な取組を進めてまいりたい。
    - （委員）

「ピアサポーター登録者数」の令和2年度実績には倉敷市分を含むか。
    - （事務局）

倉敷市は含まない。
    - （委員）

「施設に強度行動障害のある方を支援できる職員がいない」との話も聞く。強度行動障害支援者の養成について、昨年度は開催できていないとのことだが、工夫して開催していただきたい。
    - （事務局）

強度行動障害支援者の養成研修について、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったが、今年度は開催することとしている。
    - （委員）

「ほっとパーキングおかやま」やバリアフリートイレについて、利用資格のある方のみが利用するよう、啓発に取り組んでいただきたい。  
「ピアサポーター登録数」について、家庭内介護による疲弊が激しいことを踏まえ、介護者へのピアサポーターによるケアについても検討いただきたい。
    - （事務局）

「ほっとパーキングおかやま」やバリアフリートイレの適正な利用について、啓発に取り組んでまいりたい。
    - （事務局）

まずは、精神障害者のピアサポーターの拡大に努めることが重要と考えており、介護者への拡大については将来的な検討課題としたい。

(委員)

新型コロナウイルスの影響を受けた項目について、目的達成にむけて工夫されたことや今後の方策等について教えていただきたい。

「訪問系サービス利用者数」について、目標と実績の単位を「時間」にそろえるべきと考えるがいかがか。

(事務局)

新型コロナウイルスの感染状況への影響を受けた項目について、オンラインでの開催や広い会場での開催など、感染状況による影響を低減するよう取り組んでいる。

(事務局)

「訪問系サービス利用者数」について、目標と実績の単位を「時間」にそろえたい。

(委員)

「就労移行支援利用者数」等の実績は大きく伸びており、この上昇要因が分析できれば事業者にとって参考となる。「就労定着支援を利用した者の1年後の就労定着率」は57.1%となっているが、定着しなかった方はその後再挑戦したかなども分析できれば今後の参考になると考える。

## 議題(2) 岡山県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画(読書バリアフリー計画)(仮称)について

～意見なし～

## 議題(3) 岡山県自立支援協議会専門部会の活動について

(委員)

開催頻度が年に1回の専門部会は事務局からの説明のみの会となっていないか。

(事務局)

専門部会は年度で区切らず活動している。また、情報共有等は随時行うなどして課題への対応を行っている。

(委員)

各地域に自立支援協議会が設立されているが、専門部会は地域で差が生じないようにする役割もあると考えてよいか。

(事務局)

各地域の自立支援協議会では地域の課題について協議し、専門部会では同協議会の意見を踏まえて議論しているため、専門部会の活動により地域の差が少なくなることが期待できる。

## (4) 強度行動障害支援部会(仮称)の設置について

(委員)

強度行動障害支援部会の委員は何名の予定か。

当事者団体も委員として参加すべきと考えるがいかがか。

(事務局)

委員数は現時点で申し上げられないが、医療、福祉、教育、労働など様々な分野か

ら委員に就任いただくことを考えている。また、当事者団体にも委員に入っただくことを考えている。

(委員)

強度行動障害の問題は、発達障害の中でも支援の谷間にあり、複雑な問題を抱えている。行動問題のためにご家族が疲弊している在宅ケースが多いこと、親が高齢化しているが親亡き後の施設入所も GH 利用も全く見通しが持てないこと、自傷や他害のため入院後の受け皿がないため長期入院する方など、強度行動障害のニーズにあった支援がないために起きている全国的な課題があり、支援制度や施設整備充実のためには、強度行動障害のニーズについて根本的な分析が必要である。この課題の解決には、岡山市との連携も重要と考える。

(事務局)

岡山市との連携も考えてまいりたい。

(委員)

強度行動障害支援部会を設置し、調査をするとすると予算が必要だ。

(事務局)

強度行動障害支援部会の設置にあたり、必要と考える予算について来年度予算要求している。また、部会での議論を踏まえ、さらに必要な予算については次の年度に向けて検討してまいりたい。

(委員)

専門部会が 4 つとなるが、今後、さらに増える可能性はあるのか。

(事務局)

現時点ではこれ以上専門部会を設置する予定はないが、国の動向等を踏まえ、必要があれば相談させていただく。

## (5) 岡山県医療的ケア児支援センターの指定について

(委員)

センターと市町村のコーディネーター等との関係はどうか。

(事務局)

医療的ケア児に関する施策は 20 以上あり、様々な部局や市町村のコーディネーター等の関係機関・民間団体の情報を集約することとし、連携が深まることを期待している。

(委員)

医療的ケア児に関する様々な施策を展開し、また医療的ケア児等支援部会もある中、センターを置く必要性は何か。

(事務局)

センターができることで、就労など様々な保護者の悩みについて、相談しやすくなることを期待している。

(委員)

痰の吸引など、在宅でケアする保護者の方同士で話ができるようになれることを期待する。